

協会に事務局を置く団体

神奈川県消化器病医学会

本会は神奈川医学会の分科会の一つである。昭和34年神奈川県消化器病研究会として発足。その後名称を改めて県下の消化器病学の発展に貢献しつつ現在に至っている。
 春季の研究会、秋季の総会を中心に肝胆膵疾患研究会を加え定期的な活動を展開している。県下にある大学病院をはじめ公私立病院と地域医療とを結ぶ実践的な活動を行い、県下の消化器診療に果たす役割は大きい。
 当協会では51年から事務局を担当し、事務処理方法の改善、財政の確保に積極的に取り組むなど会の発展に努めている。
 現在会員は個人会員491名、施設会員148施設と役員会員181名である。平成14年度の活動は次の通り。

第48回研究会

日時 15年7月5日（土）13：00～
 会場 川崎市産業振興会館
 内容 一般演題34題
 特別講演「炎症性腸疾患治療の現状と将来」
 慶應義塾大学内科学 日比 紀文教授
 参加者 150名

第36回総会

日時 15年11月29日（土）13：00～
 会場 パシフィコ横浜 アネックスホール
 内容 一般演題28題
 特別講演「胃炎の形態的・機能的アプローチ」
 川崎医科大学内科学 春間 賢教授
 参加者 145名

役員

（16年1月8日現在）（敬称略・50音順）
 会長 小泉 博義 藤沢湘南台病院
 副会長 南 康平 丹羽病院
 幹事 池 秀之 横浜市大センター病院
 〃 上野 文昭 大船中央病院内科
 〃 長田 信 大迫内科クリニック
 〃 勝又 伴栄 北里大学東病院内科
 〃 酒井 滋 帝京大学溝口病院外科
 〃 渋谷 明隆 北里大学東病院消化器内科
 〃 島田 英雄 東海大外科
 〃 鈴木 亮一 横浜市立港湾病院内科
 〃 高橋 俊毅 国立病院横浜医療センター
 〃 田中 克明 横浜市大センター病院
 〃 玉井 拙夫 神奈川県立がんセンター
 〃 田村 聡 田村医院
 〃 多羅尾和郎 神奈川県立がんセンター
 〃 峯 徹哉 東海大消化器内科
 〃 与芝 真 昭和大藤が丘病院内科
 監事 岡部 伸彌 岡部医院

（事務局・青木誠孝）

尚、事務局は16年1月9日から藤沢湘南台病院になりました。

神奈川県消化器集団検診機関
 一次検診連絡協議会

本協議会は老人保健法施行に伴い昭和57年2月、日本胃集団検診学会（現：日本消化器集団検診学会）関東甲信越地方会実施機関部会における、各県単位に「協議の場」を設置することの申合せにより発足し、満22年余を経過した。
 発足以来、県内における老人保健法に基づく胃がんの住民検診を行なう一次検診実施機関の精度管理の向上、行政、医師会をはじめとする関係機関との連携協調を図り、共通の諸問題の研究、技術の向上を目指して討議を行い、胃がん検診の充実、発展を図ってきた。当協会は発足当初より事務局を引き受けている。

1. 協議会の開催

- (1) 第55回協議会（平成15年7月15日）
- (2) 第56回協議会（平成16年1月22日）

2. 幹事会の開催

- (1) 第68回幹事会（平成15年6月12日）
- (2) 第69回幹事会（平成15年6月26日）
- (3) 第70回幹事会（平成15年7月15日）
- (4) 第71回幹事会（平成15年12月4日）

3. 研修会

日時：平成16年1月22日（木）16:00～17:00
 会場：（財）神奈川県予防医学協会 役員室
 参加者：22名
 テーマ：「消化器集団検診の現状と今後の課題」
 講師 横浜市民病院がん検診センター
 所長 今村 清子 先生

神奈川県消化器集団検診機関
 一次検診連絡協議会名簿

（敬称略・順不同）
 横浜市民立市民病院がん検診センター 所長 今村 清子
 川崎市立井田病院がんセンター 所長 川原 英之
 （財）逗葉地域医療センター 施設長 田中 昭平
 （医）松英会 理事長 寺門 運雄
 （財）京浜保健衛生協会 理事長 矢作 淳
 （医）倉田病院健康管理室 院長 倉田 康久
 神奈川県厚生農業協同組合連合会 理事長 門倉 光重
 （財）神奈川県労働衛生福祉協会 会長 角田 昭夫
 （財）結核予防会神奈川県支部 専務理事 磯部 仁美
 （財）神奈川県予防医学協会 理事長 土屋 尚
 神奈川県立厚木病院 病院長 岡部 武史
 （医）社団相和会産業健診事業部 理事長 土屋 章
 （医）藤順会藤沢総合健診センター 理事長 石井 敏之

相談機関

神奈川県福祉部高齢者保健福祉課 課長 小野田正幸
 神奈川県医師会 理事 石井 出
 神奈川県医師会 理事 内田 健夫
 日本消化器集団検診学会関東甲信越地方会 技師長 村西 久幸
 日本消化器集団検診学会関東甲信越地方会 常任世話人 坪井 晟

（平成16年7月現在）
 （事務局・熊沢英明）

神奈川消化器内視鏡技師研究会

本研究会は、県下の消化器内視鏡技師もしくは、その仕事に携わる人々を対象に、お互いの知識・技術の向上をめざし、日常業務の質の向上を図る目的で設立され活動を行なっている。

今年度は、横浜市立港湾病院の鈴木亮一内科部長を世話人として、下記のとおり行なわれた。午前中のセミナーでは、「高レベル消毒薬の使用経験」が2施設から報告され、メーカーを交えて問題点や注意点について質疑が行なわれた。特別講演では横浜市立大学病院の粉川敦史医師による「早期EMRにおけるITナイフ法の有用性」の講演があり、またパネルディスカッションでは「オリエンテーションはどうしてるの？」が行なわれた。

特別講演は、最新の手技をビデオで見ることができ時を忘れて講演に聞き入っていた。パネルディスカッションはクリニカルパス・ビデオ・説明書を使用し、患者に正しく分かり易い説明ができるよう各施設工夫しており、インフォームドコンセントに重きを置いて患者の不安除去につとめていることが伺われた。今後とも専門知識の獲得や正しい情報を提供できる場として研究会を発展させていきたい。

最近の活動状況

第23回神奈川消化器内視鏡技師研究会

日時 平成15年5月18日(日)
会場 横浜市健康福祉センター
技師世話人 横浜市立港湾病院
内視鏡室 谷合 幸乃

内容
セミナー 「高レベル消毒薬の使用経験」
一般演題 5題
特別講演 「早期EMRにおけるITナイフ法の有用性」
パネルディスカッション
「オリエンテーションはどうしてるの？」
入場者 300名

顧問

青木 誠孝 神奈川県予防医学協会
小泉 博義 藤沢湘南台病院
比企 能樹 北里大学病院名誉教授
藤田 力也 昭和大学藤が丘病院名誉教授
三輪 剛 東海大学医学部病院名誉教授
山川 達郎 帝京大学溝口病院外科

役員

青地 広美 横浜市立病院
片野早江子 聖マリアンナ医科大学病院
上条のり子 昭和大学藤が丘病院
木下千万子 淵野辺病院
佐藤 和夫 神奈川県労働福祉協会
佐伯 美奈 聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院
菅原ゆかり 松島クリニック
瀬戸 道雄 青木医院
谷合 幸乃 横浜市立港湾病院
納所けい子 神奈川県予防医学協会
花木由香里 東海大学病院
星野 朱美 横須賀共済病院
藤井あずさ 丹羽病院
藤田 賢一 帝京大学溝口病院
藤森 弘樹 昭和大学藤が丘病院
松橋 妙子 国際親善病院
三浦 美保 北里大学東病院
武藤美恵子 東海大学病院

(事務局 納所けい子)

横浜市乳がん検診協議会

横浜市の乳がん集団検診は、昭和55年11月より開始された。

本会は検診体制の整備、改善などの精度管理面の検討と、検診の円滑かつ効果的な運営をはかるため、専門的立場から調査、審議を行うことを目的として昭和56年7月18日に発足した。

当協会は発足当初から、事務局を担当している。平成15年度の活動は以下のとおり。

幹事会(平成15年11月4日)

- (1) 14年度検診実施状況報告
- (2) マンモグラフィ併用乳がん検診について
- (3) 14年度横浜市乳癌集団検診報告書作成担当機関について

協議会(平成16年4月9日)

- (1) 14, 15年度検診実施状況報告
- (2) マンモグラフィ併用乳がん検診実施状況報告
- (3) 新年度計画について
- (4) 厚生労働省 がん検診に関する検討会中間報告について

その他

「平成13年度横浜市乳癌集団検診報告書」発行

横浜市乳がん検診協議会名簿

会長	土屋 周二	横浜市立大学医学部名誉教授
幹事	真田 裕	昭和大学藤が丘病院外科教授
幹事	高梨 吉則	横浜市立大学医学部外科学第一講座教授
幹事	嶋田 紘	横浜市立大学医学部外科学第二講座教授
幹事	福田 護	聖マリアンナ医科大学乳腺内分泌外科教授
幹事	須田 高	済生会横浜市南部病院副院長
幹事	高岡 幹夫	横浜市衛生局保健部長
幹事	有田 英二	神奈川県予防医学協会中央診療所 部長
委員	利野 靖	横浜市立大学医学部外科学第一講座講師
委員	石川 孝	横浜市立大学医学部外科学第二講座講師
委員	渡辺 弘	聖マリアンナ医科大学名誉教授
委員	蔵並 勝	北里大学病院外科講師
委員	鬼頭 文彦	横浜市民病院外科部長
委員	山本 裕司	横浜市立港湾病院副院長
委員	清水 哲	横浜南共済病院外科部長
委員	佐藤 博文	横浜栄共済病院外科部長
委員	大井田尚継	社会保険横浜中央病院外科部長
委員	高橋 利通	横浜掖済会病院外科部長
委員	竹村 正伸	横浜勤労者福祉協会汐田総合病院外科部長
委員	石川 廣記	神奈川県警友会けいゆう病院外科部長
委員	上妻 達也	横浜船員保険病院外科部長
委員	山中 研	横浜赤十字病院外科部長
委員	西山 潔	国立病院横浜医療センター診療部長
委員	田村 功	藤沢湘南台病院外科
委員	桜井 修	横浜旭中央総合病院外科
委員	田畑 和夫	横浜市衛生局保健政策課事業推進担当課長
委員	土屋 尚	神奈川県予防医学協会理事長

(事務局・栗原博)

横浜市マンモグラフィ総合判定委員会

厚生労働省が12年に示したがん検診の指針に則り、横浜市では13年10月よりマンモグラフィ装置のある市内の45医療機関（平成16年8月現在51機関）を対象にマンモグラフィ併用検診を開始した。

対象者は50歳以上の偶数年齢者とし、上記医療機関では視触診とマンモグラフィを同時実施とし、装置のない医療機関と集団検診は視触診のみを実施し、装置のある医療機関でのマンモグラフィ撮影を行うというシステムである。

本システムの特徴は、マンモグラフィ実施医療機関でフィルムの1次読影を行い、さらに読影の精度管理のために総合判定委員会において、学会認定医師による2重読影による総合判定を実施し受診者への結果通知を行うこととなっており、その運営について事務局を当協会が担当している。

毎週1回判定委員会が開催され、学会認定医師による判定が行われているが、判定会には撮影に従事する放射線技師も参加し、医師、技師による合同判定会として運営されている。更に検診に参加している医療機関の医師、技師にも公開され、検診レベルの向上に努めている。

判定会開催（15年4月～16年3月）46回

検討会開催（15年4月9日）

- ・13年、14年集計報告、他
（16年2月4日）
- ・学会報告
- ・14年、15年集計報告
- ・総合判定における「要医療」又は「視触診と一次判定」の取り扱いについて
- ・発見がん症例検討（一次読影は精検不要だが二次読影で要精検になった11例について）

判定委員会委員

福田 護	聖マリアンナ医科大学乳腺内分泌内科
八十島唯一	八十島クリニック
中島 康雄	聖マリアンナ医科大学放射線科
小田切邦雄	青葉台クリニック
奥村 輝	南山田クリニック
土井 卓子	国立病院横浜医療センター外科
清水 哲	横浜南共済病院外科
郷地 英二	聖隷横浜病院外科
山内栄五郎	聖マリアンナ医科大学横浜西部病院放射線科
久保内光一	よこはま乳腺と胃腸の病院外科
有田 英二	神奈川県予防医学協会
桜井 修	横浜旭中央総合病院外科
緒方 春樹	聖マリアンナ医科大学乳腺内分泌外科
石山 暁	横浜市がん検診センター
石川 孝	横浜市立大学医学部附属市民総合医療センター外科
印牧 義英	聖マリアンナ医科大学放射線科
片山 信仁	帝京大学付属溝口病院放射線科
鈴木美奈子	昭和大学横浜市北部病院放射線科
川本 久紀	聖マリアンナ医科大学乳腺内分泌外科
ウッドハム玲子	北里大学放射線科
加藤 直人	三浦市立病院外科

（事務局・栗原博）

乳がん集団検診協力医療機関連絡会

県域の乳がん集団検診は昭和52年度から開始された。53年度以降は県が実施主体となっており、「神奈川県乳がん集団検診協議会」の技術指導のもとに協会が委託を受け実施した。その後昭和60年度に乳がん検診が老人保健法に加わり、実施主体が市町村に変わったのを契機に、当協会を事務局として「乳がん集団検診協力医療機関連絡会（現会長＝福田護・聖マリアンナ医科大学乳腺・内分泌外科教授）」が新たに発足し、検診の実務が逐行されている。

同連絡会は「県成人病管理指導協議会乳がん部会（部会長＝福田護・同上、事務局＝県福祉部）」の指導のもと検診精度管理面の検討と、検診の円滑かつ効果的な運営を図るため設置されている。

乳がん集団検診協力医療機関連絡会

（敬称略：順不同・平成15年7月1日現在）

代表医師名	医療機関名
会長 福田 護	聖マリアンナ医科大学病院 （乳腺・内分泌外科 教授）
利野 靖	横浜市立大学医学部（第一外科）
石川 孝	横浜市立大学医学部（第二外科）
上妻 達也	横浜船員保険病院
山中 研	横浜赤十字病院
真田 裕	昭和大学藤が丘病院
清水 哲	横浜南共済病院
山下 浩二	日本医科大学付属第二病院
緒方 晴樹	聖マリアンナ医科大学病院
細井 英雄	横須賀共済病院
小林 俊介	藤沢市民病院
田村 功	藤沢湘南台病院
小林 一博	茅ヶ崎市立病院
蔵並 勝	北里大学病院
秋山 憲義	国立相模原病院
片山 清文	平塚共済病院
福田 淳	小田原市立病院
久保田光博	山近記念総合病院
原 俊介	西湘病院
鈴木 弘治	秦野赤十字病院
徳田 裕	東海大学病院
小澤 幸弘	三浦市立病院
竹下 利夫	大和市立病院
中崎 久雄	東海大学大磯病院
堀口 一弘	神奈川県立足柄上病院

（事務局・熊沢英明）

神奈川乳房画像研究会

本研究会は、マンモグラフィ・乳房超音波検査・乳房画像診断に携る県下の放射線技師・医師をはじめ、その検査を受ける立場の一般の方に至るまでを対象とし、早期乳がん発見するために、画像診断力、精度管理の知識向上を目指し幅広く普及活動を展開している。平成8年12月より活動を開始し、年4回の研究会を開催し早7年目を迎える。現在では、神奈川県下に留まらず、静岡・群馬など近県から遠方では新潟県・岩手県などからの参加者も増え盛況の内に15年度を終える事が出来た。今後も更に知識を深め、技術向上のために活動していきたい。

世話人代表 萩原 明

平成15年度 神奈川乳房画像研究会活動状況

《第16回研究会》平成15年6月7日(土)参加者244名

1. 乳癌症例検討～マンモグラフィ 40年の軌跡～
藤沢市保健医療センター参与 早野 育男
2. 精度管理 簡単な日常管理手法 その1
北里大学 石川 光雄
3. 日本の乳がん検診の課題と展望
東北大学大学院医学系研究科外科病態講座
腫瘍外科学分野教授 大内 憲明

《第17回研究会》平成15年9月27日(土)参加者176名

1. 精度管理その2
メーカーより見た測定器の取り扱い・管理方法
a. 観察器の輝度・照度測定 精工社 長谷部孝次
b. 測定機器の測定方法・取り扱い
・密着テスト ・焦点サイズの性能チェック
・圧迫器の表示精度・測定法 ・管電圧測定
・焦点とフィルム胸壁端の整合性・HVLの測定
・線出力の再現性・平均乳腺線量評価 など
東洋メディック 北村 崇史
2. デジタルマンモグラフィと乳がん検診
株式会社日立メディコ 落合 崇史

《第18回研究会》平成15年12月13日 参加者215名

1. 乳腺超音波の基礎的知識と手技
聖マリアンナ医科大学超音波センター
桜井 正児
2. 乳房における乳房超音波組織特性
筑波大学臨床医学系乳腺甲状腺内分泌外科
植野 映
3. 最新の超音波乳がん集団検診システムについて
アロカ株式会社TP事業部 奥貫 一道
4. 知っておきたい乳腺超音波診断
聖マリアンナ医科大学超音波センター
センター長 辻本 文雄

《第19回研究会》平成16年3月27日 参加者285名

1. ワークショップ
～技師が知らなければならない読影の基本～
旭川医科大学付属病院 放射線科 鈴木 隆二
船橋市立医療センター 放射線科 石井 悟
聖マリアンナ医科大学病院画像診断センター
前里美和子
聖路加国際病院 画像診断部 小山 智美
教育指導
聖マリアンナ医科大学 放射線科 印牧 義英
2. 診断に役立つマンモグラフィを撮影するための知識
旭川医科大学付属病院 放射線科 鈴木 隆二
3. 診断に役立つ乳腺読影学
がん研究会付属病院 乳腺外科 高橋かおる
(事務局 見本喜久子)

神奈川県健康管理機関協議会

本協議会は、昭和56年に神奈川労働基準局（当時）労働衛生課の指導の下で、18機関が参加して自主的に発足しました。主な活動は、平成元年度の、労働安全衛生法の抜本的改正等、関連法規の改正内容の対応や説明会の開催、中小企業に対する健康診断の周知と啓蒙活動として、県下事業所の一般健康診断結果の分析報告やリーフレットを作成するなど、労働衛生行政への協力を進めております。さらに健康管理の質的向上と経済的負担を軽減する具体的な方策の検討や医療・検査技術の情報提供・加盟各機関の運営面をも含んだ情報交換と問題点を協議する場として年2回開催しております。

平成15年度活動状況

第1回協議会（平成15年7月23日）

- 議題1 ①平成15年度神奈川労働局行政運営方針の概要
神奈川労働局 藤川 行江 労働衛生課長
②神奈川労働局からの連絡事項
神奈川労働局 土方伸一 主任衛生専門官
2 講演『企業外健康管理機関への要望』
講師 医療法人社団こうかん会
鶴見保健センター 所長 廣 尚典先生

第2回協議会（平成16年1月23日）

- 議題1 神奈川労働局からの連絡事項
神奈川労働局 藤川行江労働衛生課長
神奈川労働局 土方伸一 主任衛生専門官
2 講演『健康管理機関と個人情報保護』
講師 産業医科大学 産業保健管理学
堀江正知 教授
3 各機関からの情報交換

機関名 ●代表幹事 ▲幹事

- (財)神奈川県予防医学協会
- ▲ (財)神奈川県労働衛生福祉協会
- ▲ (財)ヘルス・サイエンス・センター
- (財)京浜保健衛生協会
- ▲ (財)結核予防会 神奈川県支部
- (財)全日本労働福祉協会
- (財)日本予防医学協会 東日本支部
- ▲ (財)労働医学研究会 川崎南クリニック
- (財)労働衛生協会
- 独立行政法人 労働者健康福祉機構
- 関東労災病院健康管理センター
- (財)労働科学研究所
- (医)社団 日健会 日健クリニック
- (医)社団 相和会
- (社)衛生文化協会 城西病院
- 独立行政法人 労働者健康福祉機構
- 海外勤務健康管理センター
- (財)逗葉地域医療センター
- 神奈川県厚生農業協同組合連合会 健康管理センター
- (財)産業保健研究財団 神奈川診療所
- (事務局・根本 克幸)

神奈川健康保持増進サービス 機関等連絡会

神奈川健康保持増進サービス機関等連絡会は、神奈川県下で活動している中央労働災害防止協会認定（名簿登載機関）の健康保持増進サービス機関で組織され、神奈川労働局の指導の下に発足し自主的に運営されている。その目的としては、事業主の責務である労働者への健康づくり活動をより質の高いものにすべく、技術の向上、運営の適正化またサービスを提供するための協議する場とすることである。

少子高齢化が急速に進むわが国においては、労働人口においてもその影響が増しており、職場の高齢化による糖尿病・高血圧症などの生活習慣病が急増している。また過重労働による健康障害、ストレスによる精神的障害も大きな問題となっている。

働く人の健康づくりを進めることの目的は、①健康で仕事に対する意欲を持った健全な労働力の確保であり、従業員にその能力を十分に発揮してもらう。②社会経済面からも職場の活性化に結び付け、医療費の抑制を目指す点にある。そのためには、健康づくりの効果が出るためには一定期間の継続が必要であり、なおかつ中長期的な視野に立った計画を立て段階的に実施していくことが重要である。このような状況に鑑み、厚生労働省では「中小規模事業場健康づくり事業」に取り組んでいる。

「中小規模事業場健康づくり事業」は、職場における総合的な健康保持増進対策として進められてきた「こころとからだの健康づくり（THP）」が大企業を中心に定着しつつある現状を踏まえ、その実施が未だ立ち遅れている中小規模事業場にその実施主体をシフトするものである。

同事業の骨格は、「経営者健康づくり体験セミナー」と「職場健康づくり支援サービス」で構成されている。本事業は、中央労働災害防止協会に名簿登載した「労働者健康保持増進サービス機関・指導機関」がその実行を担い、事業に要する費用は原則として全額国が負担する。今後本事業がサービス機関・指導機関の果たすべき役割の指針となるものである。

<平成15年度加入機関>

(医社)相和会 新横浜ソーワクリニック
(医社)相和会 淵野辺総合病院
(財)神奈川県労働衛生福祉協会
(財)京浜保健衛生協会
(社福)日本医療伝道会 衣笠病院
(医社)善仁会 横浜東口ヘルスチェッククリニック
(医財)報徳会 西湘病院
(医社)こうかん会
(財)神奈川県予防医学協会

(事務局・北見 護)

肺疾患検討会

この会も22年間、110回を数え毎回4例平均が症例として呈示され、その度毎に目から鱗が落ちる思いがする。今までに総数400例を越える。臨床の間では症例報告、症例検討は不可欠である。これによって臨床医の知恵は膨らんでくる。勿論、記憶に残っているのはそのうちの数%だろうが、だからこそ何度も何度も症例報告を勉強する必要がある。100回を機に症例を疾患別、治療などに分類してみようと試みたがあまりにも多彩で不可能?と判断した。

第107回 平成15年5月20日

特別講演
市大センター病院総合外科
乾健二教授（呼吸器外科）による「肺癌の集学的治療について」

第108回 平成15年9月16日

症例呈示
市大第1外科
①シェーグレン症候群に合併したアミロイドーシスの1例
②転移性肺腫瘍を疑った好酸球性肉芽腫
③転移性肺腫瘍を疑った血管上皮腫
④横隔膜弛緩症に対する内視鏡的縫縮術とそれに合併した再膨張性肺水腫の観察
⑤漏斗胸に対する手術

第109回 平成15年11月25日

神奈川県予防医学協会放射線科
CT検診による発見病巣の問題点（症例呈示）

第110回 平成16年2月3日

横浜市立市民病院胸部外科
①3ヶ所の胸部異常陰影に対する外科的治療方針
②PET検査で判断に迷った胸部腫瘍と肺癌の合併

(事務局・井出 研)

神奈川微小肺がん研究会

本会は、ヘリカルCTによる肺検診に携わる人達が交流を深め、その撮影条件や読影基準の統一を図るため、平成12年3月に発足した。

今現在ヘリカルCTは、肺がん検診において重要な役割を担っており、全国的に広まっている。その認知度はすでに一般的なものとなっており、当研究会はその最先端の研究を行ってきたといえる。

平成16年からは、研究集会を年3回の開催に変更し、活動内容の高密度化を図っている。主な活動内容としては、各会員がフィルムを持ち寄り、症例検討を行う形式を取っている。結果の出ている症例を使用し、疑問陰影の判定検討、希少なケースの肺がん症例の検討等を行っている。

第6回以降には、上記のほかに、30分～1時間程度の教育講演も組み込んでいる。講演内容は肺がんのみならず、肺の疾患全般に及び、また機器装置の精度管理など、その方面に精通しておられる先生を講師としてお招きしている。

教育講演は今後も継続していく予定で、症例検討と共に本会が益々発展していく事を目指している。

最近の活動状況

第17回 神奈川微小肺がん研究会 研究集会
 日時 平成16年6月10日
 会場 神奈川県予防医学協会2階役員室
 内容 症例検討
 教育講演「肺結節影に対するCTガイド下マッキングについて」
 国家公務員共済組合連合会横浜栄共済病院
 呼吸器内科部長 沼田 博行先生

役員

顧問	金子 昌弘	国立がんセンター
代表	田中 利彦	神奈川県予防医学協会
幹事	井出 研	神奈川県予防医学協会
	小田切茂樹	県立循環器呼吸器病センター
	櫛橋 民生	横浜市北部病院（昭和大学）
	駒瀬 裕子	聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院
	佐藤 雅史	日本医科大学付属第二病院放射線科
	庄司 晃	横浜市立大学付属病院（福浦）第一内科
	中島 康雄	聖マリアンナ医科大学
	萩原 明	神奈川県予防医学協会
	松崎 稔	神奈川県予防医学協会
	三浦博太郎	横須賀共済病院
	宮沢 直人	平塚共済病院外科呼吸器外科
	山田 耕三	県立がんセンター

（事務局・香西 宏信）

日本作業環境測定協会神奈川支部

日本作業環境測定協会神奈川支部は、昭和56年7月、神奈川並びに山梨の両県に所在する（社）日本作業環境測定協会会員により設立され、本年度で22年を迎えた。現在、神奈川支部の会員は、自社5、機関29、指定1、委託2、の計37会員である。神奈川支部は設立以来、作業環境測定士の資質向上と測定技術の精度向上、測定機関の業務改善並びに会員相互の親睦を目的として、種々の事業を展開してきた。

平成15年度は、作業環境測定推進大会を始めとして、各種の事業を行った。その主な内容は次の通りである。

会議

- | | | | |
|------|----|-----------|----|
| ①総会 | 1回 | ③技術専門委員会 | 7回 |
| ②理事会 | 3回 | ④機関部会全体集会 | 1回 |

事業

I. 第17回作業環境測定推進大会（15.9.18）

- ①最近の労働衛生行政の動向 ～
 神奈川労働局労働衛生課長 藤川 行江
- ②ダストランプ法によるエアロゾルの可視化について
 （財）神奈川県予防医学協会 芦田 敏文
- ③粉じん測定の変遷について
 （財）労働科学研究所 木村 菊二

II. 技術研修会

- (1)第1回技術研修会（15.6.6）
 作業環境管理の国際協力
 産業医学総合研究所 岩崎 毅
- (2)第2回技術研修会（16.1.16）
 事業所見学会：日産自動車（株） 追浜工場
- (3)第3回技術研修会（16.2.27）
 ①平成13年度作業環境測定結果報告書について
 （財）神奈川県予防医学協会 芦田 敏文
- ②実習研修
 デジタル粉じん計の保守・点検
 簡易測定器の保守・点検

III. 講習会

- 作業環境測定士試験科目一部免除講習会
 （15.5.28）

役員・技術専門委員

役員	技術専門委員
支部長	渡辺 和夫 灰塚 正隆（オオスミ）
副支部長	田中 直 岸 康博（日産自動車）
	蒔田 道則 竹平 知義（県労働衛生福祉協会）
運営委員	松井英三郎 竹内猪佐夫（関東菱重興産）
〃	井出 正 井出 正（ゼオン分析センター）
〃	井上 温 椎野 恭司（日本ビクター）
〃	井澤 方宏 芦田 敏文（県予防医学協会）
監事	望月 明彦 望月 速人（山梨労働衛生センター）
〃	益田 豊記 布川 典永（NKK）
行政	藤川 行江 高橋 宏幸（神奈川労働基準局）

（事務局・芦田 敏文）

神奈川県学校・腎疾患管理研究会

昭和50年に発足し27年目。各地区医師会・行政・大学医学部・病院・学校・検診機関が相互に連携し地道な腎疾患対策を行い児童・生徒の健康に寄与すべく事業を展開している。

I 調査研究事業

1. 小田原市における腎疾患管理で卒業等により、管理解除となった者に対する追跡調査（検診事業は今年度で終了）
2. 学校現場と医療分野の連携を図るため、各市町村養護教諭部会と講演と情報交換の会を実施予定したが、年度は直前の計画変更により実施し出来なかった。
3. 各地区の判定委員会の現状と問題点の把握
平成15年11月29日（土）

II 総会および研究会

平成15年 9月26日（土）

会 場 神奈川県予防医学協会

講 演 「小田原市における学校腎臓検診10年間のまとめ」

講 師 小田原医師会

学校保健担当理事 古藤 しのぶ 先生

III 医師部会研究会

1. 第34回研究会

平成15年 7月12日（土）15時00分～17時00分

会 場 神奈川県予防医学協会

出席者 29名

テーマ

1. 川崎市学校検尿で尿異常を指摘され管理されている症例の検討
2. 日本臨床検査標準協議会（JCCLS）の赤血球円柱判定の問題

講 師

1. 聖マリアンナ医科大学 生駒 雅昭 先生
2. こども医療センター 高橋 英彦 先生

2. 第35回研究会

平成15年12月13日（土） 15時00分～17時00分

会 場 神奈川県予防医学協会

出席者 25名

テーマ

1. 「判定委員会担当市の学校検尿で尿異常を指摘され管理されている症例の検討」
2. 「降圧薬の腎保護作用」

講 師

1. 東海大学病院小児科 新村 文男 先生
2. 聖マリアンナ医科大学腎高血圧内科 佐藤 武夫 先生

IV 知識普及活動

1. 研究会機関誌「腎」発刊17・18合併号（2,500部）
2. 腎臓手帳 500冊販売
3. ホームページ
（URL <http://www.shouni-jin.jp/>）

役 員

（順不同・敬称略）

会 長	小坂橋 靖	聖マリアンナ医科大学 小児科
名誉幹事	青山 松次	鳥海病院
〃	水原 春郎	聖マリアンナ医科大学
〃	山田 卓男	横浜市医師会
〃	酒井 糾	小児腎疾患総合管理研究所
〃	奥平 昌彦	茅ヶ崎中央病院
幹 事	青木 芳和	神奈川県予防医学協会
〃	飯高喜久雄	大和市立病院
〃	石館 武夫	北里研究所メディカルセンター病院
〃	生駒 雅昭	聖マリアンナ医科大学 小児科
〃	五十嵐すみ子	（株）メコム
〃	市川 家國	東海大学医学部 小児科
〃	梅村 敏	横浜市立大学医学部 内科学第二講座
〃	忍田 源一	忍田内科医院
〃	佐々木悦子	神奈川県教育庁 教育部
〃	河西 紀昭	相模野病院
〃	川田 征一	洋光台セントラルクリニック
〃	神山 務	かみやま小児科クリニック
〃	木内 豊治	木内医院
〃	小島 幸司	小島小児科医院
〃	佐藤 忠章	厚木子供クリニック
〃	佐藤千恵子	川崎市立南河原小学校
〃	富永 孝	神奈川県医師会学校保健担当理事
〃	鈴木 忠義	神奈川県予防医学協会
〃	竹中 道子	神奈川県予防医学協会
〃	高橋 久男	相模中央クリニック
〃	高橋 英彦	神奈川県立こども医療センター
〃	塚本 信之	塚本医院
〃	寺島 和光	元こども医療センター泌尿器科
〃	豊田 博史	豊田クリニック
〃	長坂 裕博	横浜市アレルギーセンター
〃	長洲 堯雄	長洲クリニック
〃	中沢 明紀	神奈川県衛生部
〃	中務 紀	なかむ小児科医院
〃	内藤 佳次	神奈川県予防医学協会
〃	比留川 勝	比留川医院
〃	中野 猛夫	中野小児科医院
〃	新村 文男	東海大学病院
〃	藤原 芳人	ふじわら小児科
〃	松浦 信夫	聖徳大学人文学部児童学科
〃	三井 榮枝	柄沢クリニック
〃	菊池 幸江	川崎市立日吉中学校 養護教諭
〃	末 まり子	神奈川県立立野高校
〃	曲井 史樹	由井クリニック
〃	横田 俊平	横浜市立大学医学小児科
監 事	高橋 淳一	横浜市教育委員会
〃	小金井武春	川崎市教育委員会

（平成16年 6月1日現在）

（事務局・熊沢 英明）

禁煙、分煙活動を推進する神奈川会議

平成11年11月5日設立発足した本会は着実な活動を展開し、県内における禁煙・分煙に関する活動の指導的役割を果たしてきている。

協会は設立時より本会の事務局を担当している。

「健康日本21」の目標では2010年までに、未成年者の喫煙率を0%に、喫煙が及ぼす健康被害や公共の場、職場における分煙の徹底をあげている。

15年5月より施行の「健康増進法」では、受動喫煙の防止が大きな課題となり、公共施設や教育、交通機関等の人の集まる場所における禁煙・分煙の機運は急速な高まりをみせてきている。

本会の果たす役割はより重要になってきている。

15年5月、五島雄一郎会長の死去により、7月より中山脩郎会長が就任した。

活動内容

1. 禁煙教室、禁煙セミナーの企画・実施
2. 講師の派遣
3. 世界禁煙デー関連事業の開催
4. 指導者講習会・研究会の開催
5. 指導者教材の作成・整備
6. 禁煙外来、指導を行っている医療機関等の情報収集・提供等。

15年度の活動

1. 禁煙講演会・セミナー・推進大会等開催状況
 - (1) 学校関係 34校
 - (2) 地域関係 3回
 - (3) 産業関係 6回
 - (4) 指導者講習会 1回
 - (5) フォーラム 1回
2. イベント参加
 - (1) 健康生活展 参加者 250名
 - (2) 2003薬と健康すこやかフェア
 - (3) リフォームフェア
 - (4) 関連会議参加 3回

役員（理事会）の構成

(15年7月1日現在)

会 長 中山脩郎（神奈川県内科医学会長）
 副会長 渡辺古志郎（横浜市民病院副病院長）
 ♫ 橋本弘（神奈川県歯科医師会副会長）
 ♫ 岡本光博（神奈川県薬剤師会常務理事）
 理 事 23名（医師、歯科医師、薬剤師、看護師、マスコミ、産業、教育、教育等）

(事務局・栗原博)

神奈川学校保健研究会

県内の養護教諭ら、学校保健関係者が、自主的に研修する場として昭和43年に発足。以来、毎月1回の月例研究会、夏期講習会などを実施している。

1. 月例会

日時、テーマ、講師、参加者数

①4月19日「学校事故の対応」内田市男・川崎市教育委員会・16人 ②5月17日「学校事故と法的責任」内田市男・川崎市教育委員会・15人 ③6月21日「ロールプレイング入門」川幡政道・横浜市立大学国際文化学部教授・23人 ④7月5日「人と動物の絆」水谷渉・神奈川県獣医師会長・16人 ⑤9月20日「精神分析的ロール・プレイング」川幡政道・横浜市立大学国際文化学部教授・16人 ⑥10月18日「ホスピスからみたいのちの教育」小澤竹俊・横浜甕生病院ホスピス病棟長・20人 ⑦11月15日「ブリーフセラピー入門」江花昭一・横浜労災病院心療内科部長・21人 ⑧12月13日「学校事故と刑事責任」内田市男・川崎市教育委員会・15人 ⑨2004年1月17日「PTSDとこころのケア」堤邦彦・北里大病院救命救急センター医師・17人 ⑩2月21日「世界保健機構と日本」今井健雄・神奈川県立保健福祉大学・12人 ⑪3月26日「横浜市スポーツ医科学センター・施設見学会」・14人。

2. 第35回夏期講習会

日 時：平成15年8月19日～21日

テーマ：「いのちを生きる」

一心とこころの響きあいー

①19日「児童虐待」金井剛・横浜市中心児童相談所医師、「こころの発達課題」山崎晃資・東海大学付属相模中・高校長②20日「問題行動の意味」村尾泰弘・立正大学助教授、「ギャングエイジ」宮本まき子・家族カウンセラー③21日「心療内科医と語る」津久井要・横浜労災病院医師 特別講演「心のミステリー」夏樹静子・作家 参加状況延べ243名

会員状況（平成15年度）

小学校26名、中学校20名、高等学校23名、一般22名。計91名。

役員

(順不同、敬称略、平成16年3月31日現在)

会 長 山口 京子（川崎市教育委員会健康相談室）
 副会長 藤沢 恵子（横浜市立常盤台小学校）
 幹 事 小川 初代（元横浜市立平沼小学校）
 ♫ 佐藤まゆみ（神奈川県立川和高等学校）
 ♫ 森田由美子（元川崎市立住吉小学校）
 ♫ 鈴木 晴美（横浜市立相武山小学校）
 ♫ 佐藤千恵子（川崎市立四谷小学校）
 ♫ 後藤 禮子（川崎市立久本小学校）
 ♫ 原 久子（川崎市立戸手小学校）
 ♫ 浅井 恵子（私立横浜中学校）
 監 事 坂井 悦子（横浜市立高田小学校）
 ♫ 中川 優子（藤沢市立片瀬中学校）

(事務局・百武正嗣)